

纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想(案)に関するご意見・ご提案の概要と市の考え方

番号	標 題	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
1	新施設について ・「見せる収蔵庫」を 造ってはどうか。 【ページ無し】	纏向遺跡の出土品等を集めた「見せる 収蔵庫」を造っては如何でしょうか(遺跡 内に住んでいながら実物を見る機会が なかなかありません)。埋蔵文化財セン ターが収蔵スペースでお困りのようで問 題が無いようであれば、纏向遺跡内で 史跡地と出土品の確認が完結できるこ とから移管したら良いかと思えます。限 られた展示ではない多様な史料が見ら れるということで地元学校等の学習用 にも活用ができ、纏向遺跡の理解と地元 愛着につながると思えます(地元の子供 らに将来のまちの担い手を期待)。	整備される史跡纏向遺跡交流館(仮称)には、調査記録である写真や図面などの 資料のほか、書籍を中心とした収蔵機能を持たせ、これらを交流館の情報コーナ ーで、来訪者に活用していただけるように計画しています。史跡纏向遺跡交流館 の展示室では、ご指摘のように「見せる」ということを意識した展示としていき たいと考えています。 また、ご指摘のスペースがひっ迫しております収蔵庫の課題につきまして、現在は 新たな収蔵施設を整備する計画はありませんが、将来の整備に向けて、いただ いたご意見を参考にさせていただきます。
2	目次について 【ページ無し】	ページ数が3～20までの大きな分量が 使われている「概況」部分であるが、目 次に細目の項目が無いので、分かりにく い。小項目を設けるようにすべきであ る。	ご意見のとおり基本構想の内容について、目次で概要が把握できるように、細目 の項目を小項目として掲載します。
3	構想の策定に向けて 【P1】	既存の「史跡纏向遺跡・史跡纏向古墳群 保存計画書」で書かれている「纏向遺跡 の全容を公開」(4 ページ)の項目を、発 掘による「本物の歴史遺産」を体感でき るように、国や県・市との積極的な連携	ご意見の既存の「史跡纏向遺跡・史跡纏向古墳群保存活用計画書」における 「纏向遺跡の全容を公開」していく発掘調査や研究などについては、現在、国や県 等を含めた関係機関と連携しながら行っています。今後もスピード感をもって進 めたいと考えています。具体的な計画に関してましては、遺跡の保存活用計画に 関わる事項になるため、「保存活用計画書」の見直しの際に、今回のご意見を参

纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想(案)に関するご意見・ご提案の概要と市の考え方

番号	標 題	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
		<p>や関係機関から働きかけで、計画的な発掘計画(ビジョン)を持ち進めるようにすべきである。【番号26の意見を参照されたし】</p> <p>そのことを、『纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想』の重要な柱と位置付けること。「構想」から事業化へ向かい、そして地域の活性化に寄与する位置付と明確にすること。</p>	<p>考にさせていただきます。</p>
4	<p>人口減少していないのではないか 【P1】</p>	<p>1ページ右側文章太文字について、纏向遺跡周辺地区では人口減少が進行し、地域活力の低下が懸念されており、文化財を活用した地域振興・観光振興を通じて、地元住民の郷土への誇りと愛着を醸成しつつ、交流人口や関係人口の拡大を図ることも重要である。</p> <p>◎現在、近隣はかなりの新規住宅開発が進められており、一部、特に遺跡群周辺は人口増となっており、地域の方も喜ばれている。(特区認定された地域は新規住宅開発が今後も続くと思われる。)</p> <p>この文章には、現地を見ると、違和感があるが、文章の表現を見直す必要が有</p>	<p>ご意見のとおり、対象範囲の一部地域においては微増の現象があることは見受けられます。しかしながら、今回規定した纏向遺跡周辺地区全体では減少傾向にあり、そのことを表現しています。</p>

纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想(案)に関するご意見・ご提案の概要と市の考え方

番号	標 題	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
		<p>と思う。</p>	
5	<p>計画的発掘による纏向学の進展と展望の記述が弱い 【P4】、【P25】</p>	<p>4 ページと 25 ページの記述を強化すべきである。計画的発掘による纏向学の進展と展望の記述が弱い。原案は現状をベースにしてまちづくり推進に重点をおいているが大部分が未発掘のままではまちづくりの未来像も迫力が無い。 4 ページ【遺跡の保存と管理の方向性】の一行目に「国と連携して30年以内の全容解明をめざし全面的発掘調査の段階的、連続的な計画の策定を行う」という記述を加えるべきである。</p>	<p>回答3に同じ ご意見の既存の「史跡纏向遺跡・史跡纏向古墳群保存活用計画書」における「纏向遺跡の全容を公開」していく発掘調査や研究などについては、現在、国や県等を含めた関係機関と連携しながら行っています。今後もスピード感をもって進めたいと考えています。具体的な計画に関してましては、遺跡の保存活用計画に関わる事項になるため、「保存活用計画書」の見直しの際に、今回のご意見を参考にさせていただきます。</p>
6	<p>史跡纏向遺跡交流館(仮称)基本計画の見直し 【P5】</p>	<p>参考として、「基本計画」の内容が再掲されている中で、基本方針③わかりやすい展示の項目で「遺物などを用いた直接的な展示を行うことを主眼とせず、…」と書かれているが、本物を展示することを主眼にするように、切替えるべきではないか。 パネルや写真、模型等も手段としての展示手法であっても、本物に勝るものはないし、それをアピールすることで来館・来訪者も増えることになる。スペースの点</p>	<p>ガイダンス施設は、来訪者に対して遺跡がもつ歴史的な価値を説明するとともに、遺跡を周遊するための助けとなる情報発信機能をもつ施設です。そのため遺跡の歴史的な背景やストーリー、周辺の環境等をわかりやすく伝えるために、遺物や模型、パネル、デジタル技術を用いた手法などで、情報発信することを考えています。 遺物展示を主体とする施設については、博物館のような展示施設が必要になることから、これについても長期的な視点で取り組みます。</p>

纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想(案)に関するご意見・ご提案の概要と市の考え方

番号	標 題	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
		<p>で常設でなくても、特別展で本物が展示されるようにされているのに、敢えて「直接的な展示を行うことを主眼とせず」の記載は、この「基本構想」策定の時期に変わるべきである。</p>	
7	<p>基本方針③の遺物などを用いた【直接的な展示を行うことを主眼とせず】の記述を削除すべきである。 【P5】</p>	<p>5 ページの基本方針③の遺物などを用いた【直接的な展示を行うことを主眼とせず】の記述を削除すべきである。現在の記述を削除し例えば「常設展示のほか、テーマ性のある遺物の企画展を積極的に開催する」などの記述を挿入すべき。来訪者はホンモノを見たいから遠路来るのであって写真やVRなどはネットにあふれている。前述の二項の研究が進展するにつれて発掘される実物を中心にその遺物の意義の理解のための補助としてパネル等を使用することが本来の姿である。埋蔵文化センターに所蔵される膨大な遺物の研究の成果も計画的継続的に公開されるべきでそのためのガイドンス施設である。ホンモノの展示を主眼としないようなガイドンス施設には反対である。</p>	<p>回答6に同じ ガイドンス施設は、来訪者に対して遺跡がもつ歴史的な価値を説明するとともに、遺跡を周遊するための助けとなる情報発信機能をもつ施設です。そのため遺跡の歴史的な背景やストーリー、周辺環境等をわかりやすく伝えるために、遺物や模型、パネル、デジタル技術を用いた手法などで、情報発信することを考えています。 遺物展示を主体とする施設については、博物館のような展示施設が必要になることから、これについても長期的な視点で取り組みます。</p>

纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想(案)に関するご意見・ご提案の概要と市の考え方

番号	標 題	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
8	子育て世帯の割合が比較的少なくなっているとはどことの比較か 【P11】	11ページのアンケート結果から記載された文章右について、世帯構成では、「夫婦のみ」「単身」が多く、子育て世帯の割合が <u>比較的少なくなっている</u> 。 子育て世帯は、どこと比べ少なくなっているのか。アンケートの回答者年齢が不明ですので、アンケートに基づく記載なのか不明ですが、丁寧な説明が必要では無いか。	世帯構成として、地区においては少ないという意味での表現でしたが、世帯構成では、「夫婦のみ」「単身」が多く、子育て世帯の割合は <u>少ない</u> 。」の朱書き部分を訂正します。
9	市民協働のボランティア活動について、地域の同意や反発は無いのか 【P11】	11ページ右側最下段、「今後は、関心層を活かしながら、無理なく参加できる活動や世代を超えた交流の機会を設けることが必要であると考えられる。」 地域は高齢者が多く、今後、市民協働でボランティア活動を想定されていますが、 ここへの記載により、地域の同意や反発は無いのか。懸念されるが、問題無いのか	地元区長会などにヒアリングを行った折に、「地域の人も自分の出来る範囲で関わりやすい雰囲気になっている」、「現在は周辺の活動団体との直接的な関わりは無いが、住民が団体を応援する雰囲気になっている」とお聞きしています。また、住民アンケートでは様々な地域活動に関わりたいとの意見も多かったことから、無理なく参加できる活動や世代を超えた交流の機会を設けることができれば、と考えています。
10	「観光資源の創出や市外からの集客に賛同する意見も多く、観光振興の取組が期	12ページ右側最下段、「また、観光資源の創出や市外からの集客に賛同する意見も多く、観光振興の取組が期待されているといえる。」	本項目は、小中学校の児童、生徒からの、アンケート結果にある多くの意見を、事務局において総括的に取りまとめて作成いたしました。

纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想(案)に関するご意見・ご提案の概要と市の考え方

番号	標 題	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
	待されているという」 根拠を示す文章は有 るのか 【P12】	小中学校生のアンケートから、導き出さ れた文章とは考えにくいですが、根拠を 示す文章は有るのか。原文を記載する 方が、納得性が高くなるのでは無いか。	
11	桜井市が、他地域と 比べ、来訪割合が少 ない中で、当該地域 への関心が高いとは 言えないのでは無い か 【P13】	13ページ桜井市の来訪度は周辺自治体 に比べて低め「纏向遺跡の認知度は3割 強で、実際に纏向遺跡に訪れたことがあ る方は1割以下となっている。」 700万人のアンケートを約1週間おこな われて、トータルの1割が実際に現地に 来られているようですが、アンケートの 回収率が不明ですので、1割の人数を 明確にする方が、この計画推進の必要 性を裏付け出来ると思いますが、桜井市 の他地域との来訪割合が少ない中で、 当該地域への関心が高いとは言えない のでは無いか。正しい判断を文章に含 める必要は無いか	700 万人の(株)NTT ドコモ「プレミアム」登録者のうち近畿圏居住者を対象に、 年代や性別ごとに均等回収できる条件で約3000人のアンケートを回収しまし た。3割強の方が、纏向遺跡について認知され、1割弱の方が訪れたことがあると いうことを表現しています。
12	桜井駅前に飲食店や 土産物屋が少なく、 来訪者の満足度を下 げている問題点をこ の構想から発展的に	15ページ右側最下段文章について、「桜 井駅前に飲食店や土産物屋が少なく、 来訪者の満足度を下げている。纏向遺 跡周辺地区だけでなく、市全体としての 来訪者の満足度を高める取組が必要。」	纏向遺跡周辺地区に訪れる方は、桜井駅を利用される方もおられます。それを踏 まえた上での、市内事業者からいただいたアイデアは、纏向遺跡の周辺地区のま ちづくりにとって寄与するものと考えています。

纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想(案)に関するご意見・ご提案の概要と市の考え方

番号	標 題	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
	進むように思われな い 【P15】	纏向遺跡周辺まちづくり基本構想とは関係の無い問題と思われるが、記載の問題点をこの構想から発展的に進むように思われたい。この文章が必要か再考をお願いします	
13	生活の不満を基本構 想に羅列するのは不 似合いでは無いのか 【P21】	21ページ、「まちに住む人」について纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想としてまとめられていると思いますが、生活の不満を基本構想に羅列するのは不似合いでは無いのか。再考を期待します。市役所への要望事項を別途すべきではないか	基本構想(案)を策定する上で、地区の現状と課題を把握することは、これからのまちづくりをおこなう上で大変重要であると考えたため、あえて取り上げました。このような現状と課題を踏まえ、今後のまちづくりに活かしていければと考えています。 なお、文中に記した不満を抱えているの用語は適切でないため、「○日常を支える生活インフラに 問題を抱えている 」の朱書き部分を訂正します。
14	観光客の700万人の 根拠が不明確 【P23】	23ページについて、「新型コロナウイルス感染症拡大前は年間 700 万人の観光客が来訪していた。」 700万人の根拠が以前から不明確だと考えています。正確な観光客数、国内、海外、史跡ファン等分類した正確な数字を把握し、掲載する必要が有ると考えます。 数字だけが先行して、事業者に誤解を与えるのでは無いのか。再考をお願いします	この数字は、基本構想(案)8 ページの⑥観光客の状況、第 2 期桜井市観光基本計画からの出典による、観光客の推移(桜井市)を掲載しています。各施設の独自集計結果及び市内イベントの参加人数の数値を積み上げたものになりますが、年間 700 万人のうち、その多くが大神神社への参拝客であり、また観光客は日帰り利用です。そのため桜井市には他に豊かな観光資源があるにもかかわらず、十分にその魅力を理解されていない現状があります。また観光客が滞在型になっていないことから、経済効果も限られていることを表現しています。

纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想(案)に関するご意見・ご提案の概要と市の考え方

番号	標 題	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
15	人口減少していない のではないか 【P24】	<p>24ページ冒頭の文章、「人口減少が進行し、地域活力の低下が懸念されており、これら地域資源を活用した地域振興・観光振興を通じて、地域住民の郷土への誇りと愛着を醸成しつつ、交流人口や関係人口の拡大を図ることが重要と考えられる。」</p> <p>1ページに対しても記載しましたが、人口が一部で増加していると思われます。新規住宅開発も行なわれています。本文章と現状は異なるのでは無いか。どこの地域を対象に本構想案が作成されているのか不明です。再考を願います</p>	<p>回答4と同じ</p> <p>ご意見のとおり、対象範囲の一部地域においては微増の現象があることは見受けられます。しかしながら、今回規定した纏向遺跡周辺地区全体では減少傾向にあり、そのことを表現しています。</p>
16	生活の不満を基本構想に羅列するのは不似合いでは無いのか 【P25】	<p>25ページについて、一方で、人口減少・高齢化の進行や単身世帯の増加により、地域活力の低下が懸念されるほか、日常を支える生活インフラに対する不満、未利用の建物や老朽化した建物の問題等が顕在化している。</p> <p>21ページと同様です。本基本構想に住民の不満は不適切と推察いたします。再考をお願いいたします</p>	<p>回答13と同じ</p> <p>基本構想(案)を策定する上で、地区の現状と課題を把握することは、これからのまちづくりをおこなう上で大変重要であると考えたため、あえて取り上げました。このような現状と課題を踏まえ、今後のまちづくりに活かしていければと考えています。なお、文中に記した「日常を支える生活インフラに対する不満」の朱書き部分を削除します。</p>

纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想(案)に関するご意見・ご提案の概要と市の考え方

番号	標 題	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
17	行政の部局横断的な支援 【P25】	25 ページ基本目標 2 の 5 行目に「行政の部局横断的窓口による協働支援のもと」を挿入するべきである。	「そのため、市民団体や事業者等の地域に直接的に関与する主体の活動について行政の部局横断的な支援のもと拡充や連携を促進するとともに、来訪者やファン等の地域に間接的に関与する主体にも訴求する活動に取り組むことで、多様な主体の協働により新たな魅力を生み出すまちづくりを進めていく。」の朱書き部分を加えます。
18	事例の紹介 【P26～P30】	大阪の新今宮や京都市・鳥取県・山口県等の府県レベル規模の事例を紹介しても、財政力なども大きな違いがあり、身近な自治体規模での参考事例を出来るだけ紹介すべきである。このような事例が実際には参考になりにくく、差し替えるべき。	これからおこなう纏向遺跡周辺地域のまちづくりではどのようなことができるか、という視点で、参考となる先進的な事例の紹介であり、規模の大きい事例を取り上げているわけではありません。
19	行政内部のプロジェクト組織 【P27】【P26～30】	今回の「基本構想」を具体化するための行政内部のプロジェクト組織の立ち上げについて記載がさせていない。 また、基本目標 2【27 ページ】にある「既存団体の活動の周知・連携の促進」のために、市行政内部の関係部署がソフト面だけでなくハード面においても、上記プロジェクトの中での役割を果たすことが重要であるが、それをどのように確保するかを明確にしていくこと。(駅前整備・道路整備・公園整備の各事業や宿	今後、基本構想に取り上げた事業を具体化するためには、事業の実施計画である基本計画を策定することとなります。 ご指摘の行政内部のプロジェクト組織の立上げや、ハード面・ソフト面での関わりについては、「第6次総合計画」に示されたように、事業の特質に応じたプロジェクト組織を立ち上げ、基本計画が策定されていくこととなります。

纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想(案)に関するご意見・ご提案の概要と市の考え方

番号	標 題	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
		<p>泊整備等々が具体化するために) 「第6次総合計画」では、戦略プロジェクトを立ち上げて取り組むことが記載されているが、本「基本構想」を具現化するためにも、全庁的対応を図るための組織の立ち上げの構想を持つべきである。</p>	
20	<p>多様な主体の中に大学を加えてはどうか 【P28】</p>	<p>P28 のエリアマネジメントについて、大学を加えては</p>	<p>大学については「周辺の教育機関等」という表現の中に含んでいます。</p>
21	<p>空き家の活用の表現について 【P28】</p>	<p>P28 の飲食一出店支援について、歴史的価値のある古民家等の空き家調査を行い把握し…と冒頭に追記しては。</p>	<p>「古民家などの利用も視野に入れながら、「空き家ワンストップ相談窓口」や「桜井市空き家バンク」の活用や地域との連携による空き店舗・空き家の情報提供、創業・出店相談等を通じて出店のハードルを下げるとともに、地元産品の活用やイベント出店機会の創出により販路拡大を後押しする。」の朱書き部分を加えます。</p>
22	<p>ベンチの寄与を受け る場合の懸念 【P28】</p>	<p>P28 の多様な一交流の促進について、ベンチについては寄与を受ける場合名前を表に出せない。(うらか横)(三輪まちづくり協議会堀東大教授より)おもてなしのあるベンチ</p>	<p>ご指摘のような事業が実施できた場合は、景観や周辺環境を配慮した形で行ってまいりたいと考えています。</p>
23	<p>観光資源を有する地域について 【P29】</p>	<p>P29 の市域広域ネットワークの強化について(3行目)〇〇等のエリアと景観資源を有する井寺池周辺(又は山の辺の道)や上ツ道等のエリアと一体となって…を追記しては。</p>	<p>「本市の観光資源を有する代表的地域である「三輪」と「初瀬」等」と記載しています。ご意見を頂いた地域についても含まれると考えています。</p>

纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想(案)に関するご意見・ご提案の概要と市の考え方

番号	標 題	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
24	観光タクシー 【P29】、【P26】	公共交通のネットワークの必要性が言われているが、小回りの利く「観光タクシー」についての記載がないので、それを記載すること。	P29の「周辺自治体との広域ネットワークの強化中の「飛鳥・藤原の宮都」等の周辺自治体の観光資源・施策とも積極的に連携し、周遊イベントの企画運営、レンタサイクル、周遊バスや観光タクシー等の広域観光を支える移動手段の拡充に取り組む。また、駐車場や公衆トイレの設置について検討する。」の朱書き部分を加えます。
25	宿泊機能の形体 【P30】	P30の観光プログラムの開発について、宿泊機能の前に歴史的価値のある古民家等を活用した宿泊機能としてはどうか？	満足度を高める宿泊機能については、ご指摘のような機能や参考例に挙げているものも含めて様々な可能性を考えながら、観光プログラムの開発に取り組みます。
26	今後予定のタイムスケジュール 【P32】、【P3～5】	これまでに「保存活用計画書」そして「交流館(仮称)基本計画」が作成されてきたが、今回の「基本構想」が作成され、その後「実施計画」の作成となれば、どのようなタイムスケジュールが今後予定されるのかを明らかにする必要がある。 特に、最終の32ページに「短期」「中期」「長期」と書かれているが、その期間の幅はどの程度であるのかの明確に示すことが必要である。現在併せてパブコメが実施されている「第6次総合計画の基本計画」では、「総合計画の期間」として示されている。(最下段参照)	具体的な時間幅については、本構想に取り上げた事業規模の大小により違いがあるため具体的には示しておりません。今後、個別の事業基本計画策定時に具体的な年数を落とし込んでいきたいと考えています。

纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想(案)に関するご意見・ご提案の概要と市の考え方

番号	標 題	ご意見・ご提案の概要	市の考え方
備考	現状の纏向遺跡を前提とした基本構想では不十分 【ページ無】	纏向遺跡の現状を前提とした計画では本格的な構想とは言えない原案は不十分である。基本構想である以上、長期的な視野は不可欠である全域全面による全容解明を最終目標において平城宮跡、明日香、吉野ケ里、三内丸山に比肩する姿を描くランドデザインとすべきである。	纏向遺跡の全容の解明については、保存活用計画に示した考えに基づいて、引き続き、国や県などと協力しながら、研究や調査に取り組んでいきます。今後計画する個別の事業計画については、纏向遺跡の調査研究の進捗状況を反映しながら、策定します。